週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
©2010 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing／Amusement Press Japan
planning & production／Amusement Promotion
／Up Grade　printing／Four Plus One
本紙記事の無断転載を禁じます。

HEAD LINE

2面
新機種
パチンコ
『CRフルメタル・パニック! TSR FRX』タイヨーエレック
『CRA銀と金』マルホン工業
『CR大シャカRUSH R1』マルホン工業
『CR北斗の拳剛撃HVA』サミー
『CR江戸の始末屋 -最強新日烈伝-』平和
紹介
パチスロ
『出番だ! 葉月ちゃん』エレコ
●トップインタビュー　ニューギン・足立利美専務

3面
●『花慶の日』にファン500人集う　ニューギン
●『水戸黄門2』先行導入　よしもと芸人も応援
●『CR勇者ライディーン』一般試打会　藤商事
●『レッツゴー! パチンコ陰陽師』BGM提供
●ホール・メーカーが意見交換
全日遊連中部地区協議会
●平和と新日本プロレスが強力タッグ

2010年（平成22年）8月16日　月曜日　第239号（毎週1回発行）
APJ
本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）
パチンコ・パチスロ最新機種速報
週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
2010年 8月16日 【月曜日】
編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

最新・低玉貸しファン動向

9割が投資金額1万円未満

3割強が4円から移行

高い交換率を求める傾向が

本紙では、毎年パチンコ・ポータルサイト「P-WORLD」と共同で、パチンコ・パチスロファンの平均投資金額や遊技頻度などの動向調査を行っている。今年7月に行った調査では1561人が回答。そのうち、パチンコの低玉貸しをメインに遊技する265人の回答を分析したところ、低玉貸しファンの9割が投資金額1万円未満であること、3割強が4円貸しから低玉貸しへ移行していることとともに、低玉貸しであっても高い交換率を求めていることなどが分かった。

低玉設置台数と同じ構成比に

全国のホールの約7割が実施するまで増加した低玉貸し営業。設置台数はパチンコ総台数の4分の1を占めるまでになった。ここまで拡大した背景には、4円パチンコの投資金額の高騰と勝ち率の減少、可処分所得の低下など、様々な要因が考えられる。

今回の調査結果を見ると、現在、低玉貸しを最もよく遊技すると回答したファン（低玉貸しファン）は、パチンコファン（パチンコのみ、おもにパチンコ、パチスロそれぞれ同程度との回答者）の23・9％（図1）。1年前の調査から4・6ポイント増加。低玉貸し設置台数とほぼ同程度の構成比にまで増えている。

低玉貸しファンが1年前に最もよく遊技したカテゴリーは、「低玉貸し」が45・7％で最も多いが、4円貸しから移行してきたファンが35・6％に上る（図2）。自由回答では「4円パチンコはお金がかかりすぎる」「不況の煽りを受けて、4円パチンコを打てなくなった」といった意見が見られ、ファン側の経済的事情で4円貸し離れが進んでいる側面が浮かび上がる。

新規ファンの獲得の期待がかかる低玉貸し営業だが、パチンコ低玉貸しファンで、1年前はノンユーザー・スリープユーザーだった人は3・4％だった。

低玉貸しがファンの来店促進

低玉貸しファンの1回当たりの投資金額は、「5000円未満」が半数を超え、「1万円未満」までを含めると9割に上る（図3）。ファン全体の1回当たりの投資金額は、前年の調査結果と比べ、「1万円未満」から「3万円～5万円未満」までそれぞれのカテゴリーで微減、「5000円未満」が3・5ポイント増加し、投資金額は減少に向かっている。これは低玉貸しファンが増えた影響と見られる。

投資金額の少ない低玉貸しファンの遊技頻度は、ファン全体に比べ相対的に高く、「週3日程度」以上ホールに行くとの回答が過半数を占めている（図4）。自由回答でも「1円パチンコを打つようになってから回数が増えた」といった回答もあり、低玉貸しがファンの来店促進につながっていることは確かなようだ。

しかし、ファン全体の遊技頻度は減少に向かっている。「週3日程度」が6・1ポイント減少し、「週1回程度」が前年から5・1ポイント、「それ以下」が4・2ポイント増加している。

「新台が出ても調整が厳しく、投資ばかりが増える」「回らないので面白くない。最近は随分ホールから足が遠のいている」「基本的に勝てないと考えているので、パチンコとの距離を置いている」

ファン全体と、低玉貸しファンの年齢構成を比べると、低玉貸しファンは「40歳以上」が3割に上り、比較的年齢層が高いファンで占められている（図5）。今回の調査は、若年層が多いインターネットで行っているため、実際の低玉貸しファン層は、今回の調査結果よりも高いと見ていいだろう。

低玉貸しファンは快適性も求めている

ホールにとって常に課題となっているのは、出玉以外でどう差別化を図るか。調査では、ファンが出玉以外でどんなホールに魅力を感じているのかを聞いてみた。その結果、最も多かったのが「交換率が高い」ホールで、半数に達した。投資金額が減少しても、「少ない投資で大きなリターン」を求めるファンが多いと推測される。

低玉貸しファンも「交換率が高い」ホールを支持している。低玉貸しファンが「低玉貸しコーナーがある」ホールに最も魅力を感じているのは当然なので除外すると、「交換率が高い」ホールがトップになる。低玉貸しファンが1年前に最もよく遊技していたカテゴリーを見ると、「4円貸し」が35・6％、「パチスロ20円貸し」が10・6％だった。これらのファンは16割分岐のような低い交換率の低玉貸しに物足りなさを感じ、より高い交換率を求めていると考えられる。

低玉貸しファンは「貯玉システムがあるホール」も支持している。こうした人たちを常連客化するためにも、貯玉再プレイシステムの活用は重要な課題となる。

一方で、データ表示機はそれほど重視していない傾向にあり、「勝ちを度外視して好きな台を打つ」層もいると見てよさそうだ。

このほか、低玉貸しファンは、4円貸しファンと比べて「禁煙コーナーがある」「各台計数機が導入されている」「一般景品が充実している」ホールに魅力を感じる傾向にある。いずれにしても低玉貸し営業を強化するためには、4円貸しファンとは異なるニーズがあることを考える必要がありそうだ。

図1　パチンコファンが現在よく打つタイプ

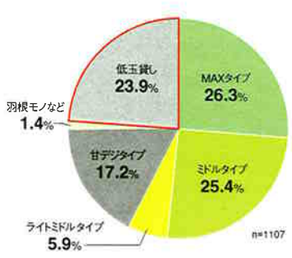


図2　低玉貸しファンが1年前によく打っていたタイプ

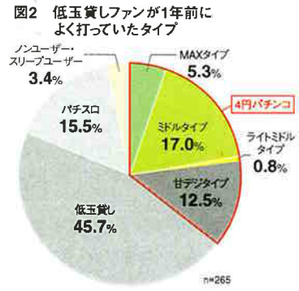


図3　1回当たりの平均投資金額

図4　遊技頻度

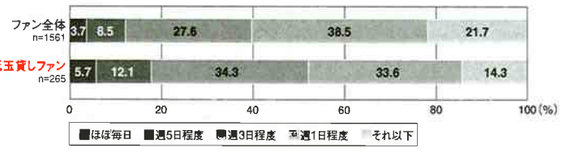


図5　年齢構成

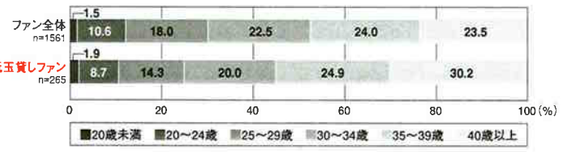
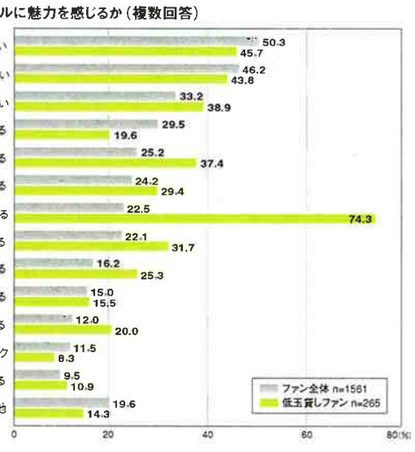


図6　出玉以外でどんなホールに魅力を感じるか（複数回答）



写真はイメージです

調査概要

■アンケートは7月22日から29日までの8日間、パチンコポータルサイト「P-WORLD」のトップ画面からアンケート画面へ誘導して実施した。アンケートはPCサイトのみで行った（携帯電話からは回答できない）。有効回答総数は1561。

■インターネットを利用した調査のため、回答者は「ネット利用者」に限定されている。回答者のイメージは「インターネットを利用するパチンコ・パチスロのコアなユーザー」となるため、その点を考慮して調査結果を見る必要がある。